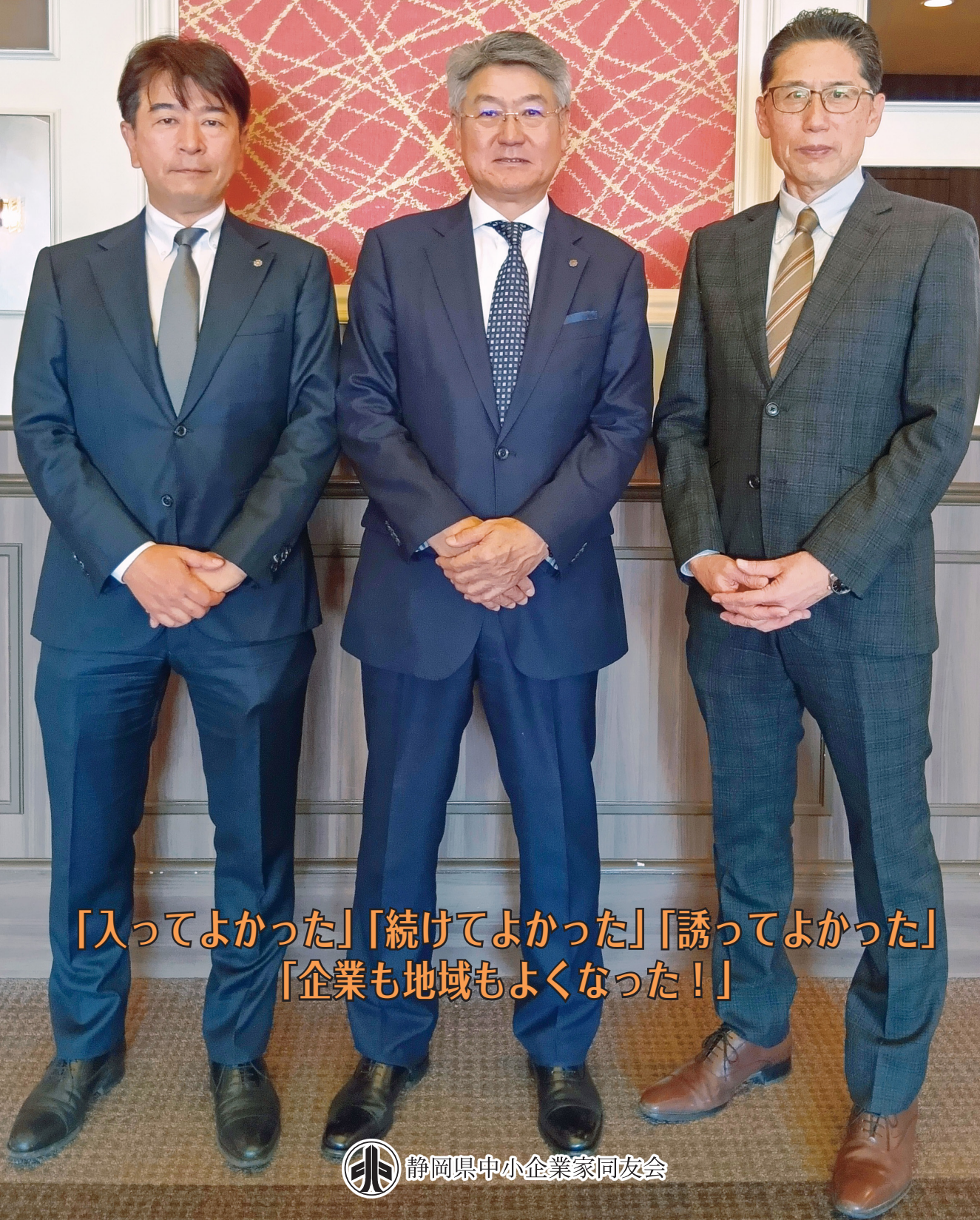


2026

同友しずおか 1

VOL.566

謹賀新年 地域の中小企業が丙午のジンクスを覆す!



「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」
「企業も地域もよくなった!」



静岡県中小企業家同友会

同友会で経営者が変わる、社員が変わる、会社が変わる。



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会 3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 経営の成功体験しか聞けない
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 将来の会社のビジョンができた
- 指示待ち社員ばかり
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130
〒420-0857 静岡県東区御幸町3 静岡三建ビル6F FAX/054-255-7620 E-mail/doyu@shizodoyu.gr.jp

◆静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きやうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

※12月の新入会員の皆さんは2月号でご紹介します。



代表理事 **松葉秀介**

(松葉倉庫(株) 代表取締役社長)

地域の中小企業が丙午（ひのえうま）のジンクスを覆す！

新年あけましておめでとうございます。2026年、令和8年の幕開けにあたり、三名の代表理事を代表し、謹んでご挨拶を申し上げます。平素より、県同友会の運動・活動・運営に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年の振り返りと感謝 支部を越えた連帯の広がり

昨年度は県同友会50年という節目を経て、「自主・民主・連帯」の精神、そして同友会三つの目的のもと、支部を越えた学び合い・支え合い・励まし合いが一段と広がった一年でした。大学や金融機関、行政機関などとの新たな連携がいくつも生まれたことは、会員の皆様一人ひとりの挑戦の積み重ねの成果です。あらためて深く感謝申し上げます。

VUCAの時代にこそ求められる「同友会型経営」

先の見えにくいVUCA (Volatility変動性、Uncertainty不確実性、Complexity複雑性、Ambiguity曖昧性) の時代にあっても、社会課題と自社課題の双方に向き合い、地域とつながりながら事業を進める私たち同友会の取り組みは、対外的な信頼にもつながっています。「科学性・社会性・人間性」を基盤とした企業づくりは、今や地域づくり・社会づくりそのものに不可欠な視点となっており、同友会の理念が時代に強く求められていることを実感する一年でもありました。

丙午の年に向き合う社会課題 少子化を、自分ごと

今年の干支は60年に一度の丙午（ひのえうま）です。前回の丙午

(1966年) では迷信の影響で出生数が大きく減少(前年の182万人から約46万人減少) し、昨年還暦を迎えた私自身も、当時の学年の人数差を身近に経験しました。

現在の日本では、出生数が9年連続で減少し、70万人を下回る深刻な少子化が続いています。これは社会全体の課題であると同時に、特に日本の企業の99%以上、雇用の7割以上を担う私たち地域の中小企業にとっても極めて大きな課題です。〆人間尊重〆を掲げる同友会型経営の実践こそが、働く人が地域で安心して暮らし、豊かさを実感し、そして安心して子育てできる環境づくりにもつながっていくと確信しています。

丙午のジンクスを覆し、挑戦の年に

前回の丙午のジンクスを覆す気概を持ち、令和の丙午を「挑戦」と「転換」の年とする、私たち一人ひとりの小さなチャレンジの積み重ねが、社会課題解決の大きな一歩となるはずです。昨年11月の第39回全県経営フォーラムのスローガンは、『やamaiか！中小企業家の戦いがここから始まる!!』でした。今年のスタートにあたり、皆様はどのような〆ここから〆を胸に刻まれたでしょうか。職場づくり・人づくり・地域づくりのいずれにおいても、まずは一つの挑戦から歩みを始めてまいりましょう。

全国総会へ向けて 静岡から日本へ

本年7月には、第58回中小企業家同友会全国協議会定時総会in静岡が開催されます。開催地として、私たち自らが「日本一の深みを極め、日本一の高みを目指す」姿を示す絶好の機会です。共に学び、共に新たな挑戦を生み出し、静岡から全国へ、そして地域社会へと、その歩みを力強く広げてまいりましょう。

そして、静岡同友会は新たなステージへ！

時代の変化とともに高まりを実感する私たち中小企業家同友会への信頼と期待。組織としての新たなステージへ上る時が来ています。更なる高みからしか見えない景色があります。先ずは1200名会員の実現、そして法人化への取り組みを通じた同友会運動の進化と深化です。一人一人の力を合わせ、私たちの静岡同友会を新たなステージに引き上げましょう!! 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

会員訪問記

美容を通して、美容師や関わる方々の
社会的地位を上げていきたい

(株)SWAG

代表取締役 小林 久城氏 (浜松支部)



小林氏

ヘアデザインから
アイビューティーまで

(株)SWAGは、浜松市・磐田市
に美容室3店舗を展開し、ヘアデ

ザインからアイビューティーまで
一貫した美容サービスを提供して
います。代表取締役の小林氏は三
重県出身で、23歳の時に浜松へ移
住、24歳で店長に就任し、27歳で



ビューティーサロン「Em Fellir」外観

法人を設立しました。その後はフ
ランチャイズ事業の運営にも携わ
り、地域に根ざした美容サービス
の提供に尽力しています。201
1年には浜松市原島町に1号店を
オープンし、2013年にはさら
に磐田市へ出店しました。お客様
一人ひとりに寄り添う技術とサー
ビスを大切にしています。

今後、力を入れていきたいこと

同社では、地域の皆さまに選ば
れ続ける美容室を目指し、これか
ら営業面の強化に取り組んでい
きたいと考えているそうです。特に
大人の女性に向けたサービスに力
を入れ、落ち着いた空間づくりや
サービスなど、年代に寄り添った
提案を大切にしています。飲食店
のように目に見える「色」が出し
づらいからこそ、確かな技術、丁
寧な接客、スタッフ一人ひとりの



小林氏とスタッフの皆さま

人間力をサロンの個性として磨い
ています。また、今後は右腕とな
る人材づくりや従業員の育成に更
に力を入れていくと言います。
「スタッフが自信を持って働ける
環境を整え、お客様にも長く安心
して通っていただけるサロンづく
りを進めていきたい」と小林氏は
話します。

同友会に入会したきっかけ

同友会へは、経営の基本を学び、
経営者としての視野を広げたいと
考え入会を決意しました。さまざ
まな経営者の方々と交流する機会
が増え、横のつながりが生まれ、
大きな刺激を受けるようになった
そうです。

美容業界の抱える課題解決
に向けて

美容業界は、業界全体の平均年
齢が約25歳と若く、将来の担い手
が多い魅力的な業界です。しかし

一方で、法人化しているサロンが
まだ少ないという現状があります。
その結果、雇用環境や福利厚生が
十分に整っていない、給与や働き
方に不安を感じるスタッフが多い、
といった問題が生まれています。
だからこそ小林氏は、「美容師の
働く環境を改善し、美容師全体の
社会的地位を高めていきたい」と
いう思いで取り組んでいます。美
容という仕事は、お客様の人生を
豊かにし、毎日を明るくする大切
な仕事です。その価値が正しく評
価され、安心して長く働ける業界
にしていきたいことが、今求められ
ています。

取材・記事：渡瀬 亜由子氏

(夢トロッコ：浜松支部)
取材：秋山英正氏

(浜松資材(株)：浜松支部)
花井 純氏
(スヘースフランシング(株)：浜松支部)

(株)SWAG

〒435-0047 浜松市中央区原島町621

TEL：053-411-5215

URL：https://emfellir.jp/

設立 2009年

社員数 27名 (パート・アルバイト含む)

入会年月 2025年2月

事業内容 美容室・まつ毛サロンの経営

会員訪問記

真の満足から生まれる、irohacoの家づくり

(有)アヴァンス(いろはこ)
代表取締役 山田 浩慶氏(三島支部)



山田氏(左)と取材陣

満腹ではなく、満足をつくる家づくり

山田氏は26歳で起業し、焼肉店やイタリアンレストランなど複数

の飲食店を経営してきました。その中で培われたのが、「満腹ではなく、満足を提供することが事業の本質である」という考え方です。料理の質、接客、空間、価格など、

すべてにおいて高いクオリティがあつてこそ、お客様との長い信頼関係を築けることができます。この価値観は、人生で最も大きな買い物の一つである家づくりに通じると考えました。住宅業界において、ただ家を建てて引き渡すだけでは真の満足は得られません。そこで、飲食業で得た経験を住まいづくりに活かすため、住宅ブランド「irohaco」を設立。完全自由設計によりお客様一人ひとりの想いを形にし、施工実績を活かした適正価格で、建てた後の暮らしまで見据えた住まいを提供しています。irohacoは、家づくりを通じてお客様の人生をより豊かにすることを目指しています。

家づくりの先にある「満足」を届けるために

irohacoの強みは、「お客様の満足」を家づくりの基準に据えていることです。あらかじめ決められたプランを当てはめるのではなく、完全自由設計にこだわ



完全自由設計の内装

り、ご家族一人ひとりの暮らし方や価値観、将来設計まで丁寧に伺います。その想いを余すことなく形にすることが、真の満足につながると思っています。また、自由設計でありながら適正価格を実現していることも大きな特徴です。年間50棟以上の施工実績による建材の一括仕入れや、職人との長期的な協力体制により、無駄な中間コストを徹底的に削減し68.5万円から高品質な住まいを提供することが可能です。家を建てるのがゴールではなく、建てた後の暮らしや人生まで見据えること、それを本気で考え、行動しているからこそirohacoの最大の強みです。

想いを共有する仲間とつくる、irohacoの未来

「完全自由設計と適正価格という強みをさらに磨き、お客様一人ひとりの暮らしや人生に本気で向き合う住宅会社でありたい家を建てるのがゴールではなく、住み始めてからの暮らしがより豊かになることこそが私たちの使命」と山田氏は語ります。そのために設計力、提案力、施



irohaco外観

(有)アヴァンス(いろはこ)

〒411-0903 駿東郡清水町堂庭241-22

TEL: 055-981-1685

URL: <https://irohaco.jp/>

創業 2004年

社員数 18名

入会年月 2010年2月

事業内容 住宅の設計、施工、リフォーム、販売、不動産

取材・記事・細井崇史氏
(花屋Marley・三島支部)

工品質を高め続けるとともに、人材育成にも力を注ぎ、想いを共有できる仲間を増やし、「満足を基準にした家づくり」を軸に歩み続けていきます。
地域に根ざし、長く信頼される存在として、家づくりを通じて多くのご家族の未来を支えていく、それがirohacoがめざす未来です。

第39回全県経営フォーラム

記念講演 いま、中小企業経営者が徳川家康から学ぶべきこと

講師…小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）

11月27日（木） ホテルクラウンパレス浜松 参加者…275名

小和田哲男氏から75年の生涯のうち15年間を浜松の地で過ごした徳川家康がいかにして事業拡大（江戸幕府創立）に成功したのか、現在の企業経営にも直結する事柄をいくつかの切り口からご講演いただきます。講演内容を一部ご紹介します。



小和田 哲男氏（静岡大学名誉教授）

現代の経営にも通じる家康の人材観

家康の人材観は「人の長所をとれ」であった。人材配置は単なる適材適所でもリーダーの好みで選ぶのではなく、誰がどのような仕事に向いているのか、常に人の長所を見て仕事を与えることが重要と考えていました。また、補佐役には「自分によいことを言ってくれる人ではなく、耳の痛いことを言ってくれる人」を置くことを大切にしていました。家康は様々な経験から家臣たちに支えられ成長してきたことを実感し、家臣を大切に思う気持ちがありました。その気持ちこそが家臣から信用される大名になる土台となりました。

1573年に起きた三方ヶ原の戦いで家康は大敗し家臣の約1割を失いました。家康の身代わりとなり、命を落とした家臣も数多くいたといえます。家臣によって生かされたこの経験が後に「家臣こそが宝」の精神を形作る原点にもなりました。また、この戦で大きな挫折を経験した家康でした

が、「次は負けてたまるか」と強い気持ちを持つことが失敗を乗り越える糧となること、その先に成長や成功があることを自身の経験をもって我々に伝えてくれているのではないのでしょうか。

歴史は未来を照らす鏡

「前車の覆るは後車の戒め」のことわざが示すように、同じ失敗をしないで済むことが歴史の学び方のひとつです。家康自身は、自分の前を走っていた織田信長と豊臣秀吉の2人の良いところ、悪いところを見て学び、良いところは受け継ぎ、失敗は繰り返さないことを徹底していました。また、多くの歴史書を読み、先人たちの成功や失敗について熱心に学んでいたといわれています。歴史を学ぶことでヒントを得てきたことこそが、家康が大きな成果をあげられた要因であると考えられます。

「歴史は鏡であること」を我々も認識しなければなりません。歴史という鏡で未来を照らす。歴史は単なる過去に起きた出来

事ではなく、未来のためにあります。歴史番組や大河ドラマで出てくる人物、自分自身の前を走っていた先人たちの良いところを学び、悪いところは軌道修正していくことは、家康から学ぶことができるリーダーとしての姿勢であり、これこそ中小企業経営者が歴史から学ぶべきことではないのでしょうか。



第39回全県経営フォーラム 分科会参加者感想

12月号に引き続き分科会の感想をご紹介します。

第1分科会

「人が辞める本当の理由、見えていますか？」
第1分科会は、「人が辞める本当の理由、見えていますか？」をテーマに人を生かす経営について学びました。昨年、自社において2名のスタッフが退職してしまったことから、当分科会を選択しました。分科会内で同友会が推進している「企業変革支援プログラムver.2」に則って各自が自社の診断を行いました。自社における「経営者の責任」「経営理念の実践」等がリーダーチャートで認識でき、人を生かすための社内制度等の現在位置が明確になりました。グループでの討論では、ブラザーシス



第1分科会グループ討論の様子

第4分科会

「話して共有、わが社のやらかし みんながしくじり先生！失敗のあとの思考法」
「全員がプチ報告者」という言葉に惹か



第4分科会の様子

ター制度の導入、人事課や社外コンサルなどに定期的に社員の思っていることをヒアリングするなど、離職防止の取り組み事例を共有しました。会員企業の「企業変革支援プログラム」の実施率が0.02%ということに驚きましたが、自社の現在位置をこのプログラムで確認しながら、社内整備を進めていこうと決意ができました。

足達聖也氏
(株)スマートステイ／伊東支部

れ、この分科会を選びました。最初のバズテーマは「あなたがやらかしたこと」。経営者の失敗談はスケールが違う！参加者それぞれが自らの失敗を抉り出し、さらけ出す場になりました。多額の借金、度重なる事業不振からの再起、市場変化への対応不足など、ここでしか語れない経験が次々と語られました。「なんとなく生きてきた」と自体が失敗だった」という告白もあり、座は重苦しい雰囲気…。でも、そんな話ができる同友会にいてよかったと思えるバズでした。続くバズテーマ「失敗の後の思考法」では、失敗から目をそらさないこと、あきらめないことといった心構え、早めの対処や積極的な行動の大切さなど、今日から生かせる言葉が詰まっていました。深さと真剣さに満ちた、全国レベルを超えた分科会でした。

伊藤光昭氏(伊藤金物(株)／富士支部)



小和田先生を囲んで実行委員の皆さんと

フォーラム実行委員

実行委員長	伊藤 洋子 (株)シーエーティー	富士宮
県副代表理事		
副実行委員長	越膳 徹 (南イーリード)	沼津
県副代表理事		
副実行委員長	大関 泉 (株)ジー・ディー・エス	浜松
担当代表理事	松葉 秀介 (松葉倉庫(株))	志太

第1分科会

リーダー	萩 智理 (株)ラフト	静岡
サプリーダー	辻本 光裕 (株)辻本企画	沼津
	大竹 直 (アズノホームグループ(株)ダイラック)	伊東
	小林 裕敏 (株)共立アイコム	志太
	鈴木晋太郎 (南知久太田会計事務所)	榛南
	池田 直之 (株)池田製作所	榛南
	三島 一浩 (サンレイ食品(株))	浜松

第2分科会

リーダー	西鉢 亮貴 (株)駿東ドリームビレッジ	富士宮
サプリーダー	田中 大輔 (南チアキ機工)	富士宮
	村松 繁 (アイマーク(株))	志太
	渡辺 早紀 (合同会社ナレッジ・ストック)	三島
	小林 完 (東和自動車販売商会)	沼津
	原田 昌樹 (株)アレミティ	静岡
	伊藤 嘉浩 (ブルデンシャル生命保険(株)浜松支社)	浜松

第3分科会

リーダー	下坪 壮介 (薫風堂)	静岡
サプリーダー	望月 康平 (株)カネキユウ	静岡
	鈴木 将大 (南東亜電気工業)	伊東
	鈴木 滋敏 (株)鈴剛	富士
	三木 綾美 (AmiraiZ)	富士宮
	藤井 陽介 (南藤井建築)	中遠
	江間 省豪 (データマイン(株))	浜松

第4分科会

リーダー	宮口 貴信 (グリーンシステム(株))	中遠
サプリーダー	西川 竜司 (株)富士ドリームビレッジ	富士
	田中 友寛 (カグスタイリングプラス)	三島
	佐野 雅文 (合同会社ComingTrue)	沼津
	梅屋 直史 (株)ポリマテック	富士
	鈴木 達仁 (理仁薬品(株))	静岡
	鈴木 裕貴 (株)デジジー	浜松

第5分科会

リーダー	渡邊 且真 (株)協和)	静岡
サプリーダー	渡邊 雅也 (南富士美装)	富士宮
	森 一直 (山本電機(株))	榛南
	石山 美歌 (ラウンジ ジャジーラ)	御殿場
	北田 記章 (株)北田木材)	御殿場
	俵 沙織 (株)東明電気製作所)	沼津

静岡産業大学と連携及び協力に関する協定を締結

12月5日(金) 静岡産業大学藤枝キャンパス 参加者：大学6名 同友会12名

静岡同友会は、静岡産業大学との連携及び協力に関する協定を締結しました。締結式には、堀川知廣学長をはじめ、佐野経営学部長、小泉教務部長、広岡事務局長、田中学長補佐兼企画戦略室長、吉添企画戦略課長が同席。同友会からは松葉代表理事、井上代表理事をはじめ12名が出席しました。

本協定の目的は、「地域社会との連携を図り、地域の実情やニーズを把握のうえ、地域の活性化・人材育成等のために協力し、地域社会の様々な課題解決に向けた取り組みを推進すること」としています。

堀川学長からは、本協定締結を契機に、同友会会員による生きた経営実践を語る「冠講座」や豊富な学識を擁する教員との共同研究をはじめ、地域社会と日本を支える99%以上の中小企業の発展にむけた幅広い連携に期待したいとの挨拶がありました。同友会からは松葉代表理事より、本連携協定で



る99%以上の中小企業の発展にむけた幅広い連携に期待したいとの挨拶がありました。同友会からは松葉代表理事より、本連携協定で

大学との繋がりを深め更なる生きた学びの場とし地域に新しい力を生み出す第一歩にしていく抱負を述べました。

静岡産業大学は1994年に開学。卒業生は1万人を超え、県内や国内外で社会の中心となって活躍しています。「地域や世界の動きを学ぶ実学教育」「成長が実感できる大化け教育」「希望する職に就けるキャリア教育」を教育方針として掲げています。また基礎学問から応用分野まで60名の専門教員が在籍しています。藤枝キャンパスでは経営学部、磐田キャンパスでは経営学部とスポーツ科学部を展開し、約4000名の学生が在籍しています。

藤枝キャンパスでは、今春4月から会員が教壇に立ち経営学部生にむけた冠講座がスタートする予定です。静岡同友会と大学との協力協定は、2008年9月静岡大学、2025年7月静岡英和学院大学及び短期大学部に続き、3大学となりました。



る予定です。静岡同友会と大学との協力協定は、2008年9月静岡大学、2025年7月静岡英和学院大学及び短期大学部に続き、3大学となりました。

中小企業等支援に関する包括連携協定を遠州信用金庫と締結 地域と中小企業の発展にむけ具体的な連携に繋げる

12月15日(月) 遠州信用金庫本店営業部

静岡同友会は12月15日(月)、遠州信用金庫と「中小企業等支援に関する包括連携協定」を取り交わしました。

当日は遠州信用金庫から守田泰男会長、鈴木靖理理事長、松下和広常務理事の3名、同友会から代表理事や浜松支部役員を中心

に8名が出席し、締結式が執り行われました。本協定は中小企業の抱える経営上の各種課題を解決し、地域の中小企業の発展と地域経済を活性化させることを目的としています。

守田会長と鈴木理事長からは本日の協定締結がゴールではなく、中小企業が地域で生き残っていくために、中小企業の現況や

直接して、金融機関への要望などをもとに意見交換し、実のある協定にしていきましようとお話をいただきました。



協定書に署名する鈴木理事長(中央)と井上代表理事(手前)

直接して、金融機関への要望などをもとに意見交換し、実のある協定にしていきましようとお話をいただきました。

続いて井上代表理事から先日(第39回)全県経営フォーラムご臨席の御礼や静岡県西部地域における同友会運動の展開について触れながらあいさつをしました。秋山英正浜松支部長からは浜松支部としての活動だけでなく、他経営者団体との意見交換なども実施し企業同士のマッチングや地域内連携に繋げていきたいとあいさつがありました。また、遠州信用金庫は会員として12月から入会(浜松支部所属)され、会活動に参画いただくことになりました。

本協定締結を契機に相互の協力関係を今まで以上に強化し、地域課題の解決や地域活性化を進めていきます。



右から守田会長、鈴木理事長、井上・兼・松葉代表理事

第4講

10月29日(水)

目的は社会課題の解決！NPO経営で
チャレンジする少子化時代の社会デザイン

講師：塩川 祐子氏

(特定非営利活動法人母力向上委員会・富士宮支部)



塩川氏は自身が子育てで悩んだ経験から、生き生きとその人らしく子育てができる社会をつくりたいとNPO

を立ち上げました。産後母親の孤独感・承認機会の減少などの課題解決に向け、産後ケアやママ同士の交流の場づくりに取り組んでいます。また、男性の家事・育児参加も課題です。最後に学生に「あなたにとっての社会課題は何ですか」と問いかけました。

第5講

11月5日(水)

モノづくりで社会を支える

講師：兼古 東志浩氏

(株アイビス・中遠支部)



電子応用測定装置の受注から納品まで一貫体制で行う(株)アイビス。兼古氏は幼い頃からプラモデルや工作機械が

好きでこの業界を選んだといいます。日本の製造業を象徴する大和言葉「ものづくり」の意味や世界における日本の製造業の立ち位置に触れ「日本の製造業を世界のトップへ引き上げたい」と思いを語りました。「仕事を選ぶ際は一生付き合っていけるかという見極めを大切にしてください」と学生に伝えました。

第6講

11月12日(水)

「仕事ってなんだろう？」4つの満足をも
基盤とする我が社の弱虫経営

講師：西村 知浩氏

(株ウエッジ・富士支部)



(株)ウエッジは牡蠣殻やゼオライトを主材にミネラル健康食品原料の製造を手掛けており、事業の原点には「すべ

ての人に幸せであってほしい」という願いがあります。従業員満足度を第一に考え、4P戦略をもとに自分の立ち位置の認識を通して高い利益率を確保しています。最後に「まず自分が幸せでないと人を幸せにはできない。頑張らずに、でも少しずつ頑張り続けてほしい」と学生にメッセージを送りました。

第7講

11月19日(水)

人と話すから人と繋がる

講師：秋山 英正氏

(浜松資材(株)・浜松支部)



浜松市でポリウレタン製品の製造開発、主に耐震マットの製造販売をしている浜松資材(株)。秋山氏は防災に携

わる会社として「地域社会の防災力を向上させ、地域の人たちが安心して暮らせる未来をつくる」ことを経営理念に掲げています。震災の実際の事例をもとに学生に備えることの大切さを伝え、最後に「いざという時に避難できるよう家庭で防災について話し合ってほしい」と伝えました。

第8講

11月26日(水)

49歳社長×静大生「未来の描き方」
「2035年、最高の私」へのロードマップ

講師：増田 隼人氏

(株集客デザイン研究所・三島支部)



増田氏は自身の経験からファシリテーション力の重要性について、場を盛り上げ、人を動か

し、先輩や上司との距離を縮める力になると語りました。また実際に学生主体でグループワークを行い、「10年後の幸せな平日」をテーマに、理想と現実のギャップを埋めるためのこれからの10年戦略について話し合いました。

第9講

12月3日(水)

じぶんづくり、かいしゃづくり、まちづくり

講師：小野寺 敦嗣氏

(富士設計(株)・富士宮支部)



若くして経営者となった責任感を胸に、同友会での学びを経営に生かしてきた小野寺氏。「人を生かす経営」

を教科書に、営業成績中心だった視野を改め、社員を尊重する姿勢へ転換。新社屋建設では資金調達以外は社員に任せ、建設地についても社員の希望を優先してきました。「社員のやりがいと働きがいを大切にする経営を進めている」と社員への想いを語りました。



県にじいる共生委員会は静岡市ボランティア団体連絡協議会主催の「いのちぽかぽか街かどクリスマスバザー」に出店し、会員から寄せられた食品・雑貨などの商材を販売しました。「にじいろの世界で多様性を個性と捉え、皆が共に生きていける社会を実現する」を方針に掲げる本委員会。バザーへの出店は2003年より毎年行っており、売上金を福祉団体等へ寄付することで、会員が誰でも社会福祉に関わることでできる機会となっています。当日は多くのお客様にぎわい、県にじいる共生委員や沼津支部福祉委員会のメンバーがお客様と直接会話を交わしながら商材を販売しました。バザーの売上は63,100円でした。寄付の詳細につきましては追って皆様にご案内します。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

県にじいる共生委員会 クリスマスバザー
あたたかい支援でつなぐ
福祉の輪
12月13日(土) 青葉公園シンボルロード

1月・2月

DOYU CALENDAR

1月16日(金)～2月15日(日)

2026年1月16日(金)	グループ長研修 (19:00 ロゼシアター) 県政策委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
22日(木)	県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
23日(金)	中同協定時総会in静岡 実行委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) 沼津新年例会 (イントロセミナー) (18:30 彩食茶の間Coo沼津店) 富士新春例会 (19:00 ホテルブランド富士)
26日(月)	役員研修会 (15:00 クーボール会館) 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM)
27日(火)	県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県広報情報化委員会 (19:00 ZOOM) 三島賀詞交歓会 (19:00 三島商工会議所)
28日(水)	志太例会 (19:00 B-WORLD)
29日(木)	中遠例会 (19:00 ワークピア磐田)
30日(金)	県例会企画委員会×県青年部コラボ グループ長体験会 (19:00 ペガサート)

2月3日(火)	県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM)
5日(木)	県正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM)
7日(土)	経営指針を創る会 大同窓会 (17:00 浮月楼)
10日(火)	御殿場例会 (19:00 エピ・スクエア) 静岡例会 (19:00 教育会館)
12日(木)	伊東例会 (19:00 未定) 浜松例会 (19:00 浜松市市民協働センター)
13日(金)	第4回青年部東海合同例会in岐阜 (13:00 ホテルグランヴェール岐山) 富士宮例会 (19:00 富士宮市総合福祉会館)

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



第22期経営指針を創る会 経営指針発表会

仲間と共に自社・自身と向き合い作成した 経営指針を発表

11月15日(土)～16日(日) ペガサート・クーボール会館 参加者：34名

今年6月から全10講で開催した第22期経営指針を創る会の最終講にあたる経営指針発表会を受講生10名、修了生24名参加のもと開催しました。当日は受講生が、これまでの期間で自社や自身と向き合い、本音で議論を重ね作成した経営指針を発表しました。受講生からの感想・今後の決意を紹介します。

<受講生感想>

同友会に入会するまでは自社に「経営指針書が存在しない」ことに重要性を感じていませんでした。そのため、目の前の問題を解決することの繰り返しを経営者としての責務であると感じていました。しかし、事業承継時に経営指針書が成文化されていなかったことへの不安や疑問、そして、次世代へのバトンとして指針書を創らなければならないと感じ受講を決めました。創る会は自身の心の奥底にある本音（覚悟）に「なぜ」「どうして」「誰のために（誰に向けて）」と深掘りすることで、創業者や歴代社長の思いを知り、自社事業定義、経営理念、経営計画を策定し自社の進むべき方向を明確にすることができます。また、修了生の皆様の経験や他業種からの視点等により、自身では気付かない本音を引き出すことができます。また、受講生の皆様と共に切磋琢磨することで新たな絆も生まれました。経営指針書の成文化はゴールではありません。自社の目指すべきゴールを示すことができ、ようやくスタートラインに立つことが出来たに過ぎません。経営指針書を自社に浸透させ、常に自社や自らを照らし合わせ、社会情勢や自社の状況等を鑑みアップデートし続けていきます。

杉本 高英氏（㈱杉本商店・伊東支部）



第22期創る会受講生とスタッフ陣